

令和7年度 キッズフロンティア I 番館(保育所等訪問支援)自己評価総括表

○保護者評価実施期間	2026年3月1日			～	2026年3月16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7		(回答者数)	5		
○従業者評価実施期間	2026年3月1日			～	2026年3月16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5		(回答者数)	5		
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日						

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先の保育士や教師と丁寧に情報交換を行い、集団の中でのお子さまの様子を把握した上で支援方針を共有しています。	訪問前に保護者や事業所スタッフと目標を確認し、訪問後には具体的な観察内容と提案をフィードバックする流れを整えています。	訪問先との関係をさらに深め、定期的な合同ケース検討の機会を設けることで、連携の質を高めています。
2	お子さまが集団生活の中で安心して過ごせるよう、環境面・関わり方の両面から訪問先スタッフへの助言を丁寧にしています。	具体的な対応例や視覚支援ツールの紹介など、現場ですぐに活かせる実践的な提案を心がけています。	訪問先スタッフが自信を持って支援できるよう、継続的なフォローと情報提供の仕組みをさらに充実させます。
3	保護者に対して訪問の目的や内容をわかりやすく説明し、家庭・訪問先・事業所が連携した一貫した支援を実現しています。	訪問後の報告書を保護者にも共有し、集団生活の中での成長や課題を家庭でも意識できるよう働きかけています。	保護者が訪問支援の経過を実感できるよう、定期的な面談を通じた振り返りの機会を設けていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先ごとに環境や支援体制が異なるため、統一した支援アプローチを維持することが難しい場面がある。	訪問担当者が個別に対応を判断することが多く、事業所としての方針や対応基準が十分に共有されていない。	訪問支援マニュアルと対応基準を整備し、担当者が変わっても一貫した支援が提供できる体制を構築する。
2	訪問件数が増える時期に記録や報告書の作成が追いつかず、訪問先へのフィードバックが遅れることがある。	訪問・記録・報告のサイクルが属人的な管理になっており、繁忙期に業務が滞りやすい構造がある。	記録テンプレートの整備と提出期限の明確化により、計画的に業務を進められる仕組みをつくる。
3	訪問支援の効果を数値や具体的な変化として把握・評価する指標が十分に整っていない。	支援の成果が「感覚的な手応え」にとどまりやすく、客観的な評価や改善サイクルに結びつきにくい状況がある。	観察シートや評価項目を標準化し、訪問ごとの変化を記録・比較できる仕組みを整え、支援の質の向上につなげる。